

校長先生の初恋物語

第11話 もう一人の男の子



「がらがら。」
図書室のドアがいきおいよくあきました。そこに立っていたのは、足長君でした。「うっ・っ。足長君か。」とつくくんは不安になってきました。このところの足長君のいやがらせは、エスカレートするっぽうです。誕生日会の中でも、とつくくんに対して、何かしてきそくないやなよかんがします。さらに、足長君は気になることを言いました。

「よしこさん、またぼくを誕生日会に誘ってくれるんだね。これで、5回目かな。」

なんと、足長君は毎年よしこさんの誕生日会にしようたいされているのです。ということは、よしこさんが好きな人は、足長君ということでしょうか。

足長君は、図書室を出るとき、とつくくんに向かって言いました。「とつくくん、誕生日会を楽しみにしてるぜ。とつくくんはいったい、どんなプレゼントを持ってくるんだろうね。期待してるよ。」そんなことをいやな感じで言って、そのあと、よしこさんの手を引っ張って行ってしまいました。

図書室に取り残されたとつくくんは、悩みました。「そうか。誕生日会にいくんだったら、なにかプレゼントを持っていかないといけないのか。」これまで誕生日会にさそわれたことがないとつくくんは、そんなことも分かりません。さらには、女の子がどんなプレゼントをよろこぶのか、まったく思いつきません。「よしこさんは、いったいどんなものがほしいんだろう。なにをもらえたら喜ぶんだろう。」

男の子がほしががるものは、例えば、「スーパーカーのプラモデル」「アメリカンヨーヨー」「キン肉マンのまんが」こんなところです。



でも、よしこさんはそんなものをもらっても喜びはしません。

「きっと、ぬいぐるみなんか、ほしいんだろうなあ。」

ところが、とつくくんのおさいふには、100円玉が一枚あるだけです。100円では、ぬいぐるみなんて買うことはできません。とつくくんは、お母さんになきつきました。

「お母さん、よしこさんのお誕生日会によばれてるんだけど、何かプレゼントを買いたいんだ。でも、100円しかなくて……。プレゼント、買えないよー。お金ちょうだい、いいでしょ。」



しかし、とつくくんのお母さんは、かんたんにはお金をくれないけちな人です。毎月のお小遣いは500円。それいはいはお手伝いをしないとくれません。お金にはきびしいお母さんはこんなことを言いました。

「何考えてんの。お手伝いもしない子に、お金なんてあげるわけないでしょ。100円あるんなら100円のものを買えばいいのよ。」こんなひどいことを言うのです。

「100円じゃ、ろくなもの買えないでしょ。お母さんは、ぼくがよしこさんにきらわれてもいいの。足長君も来るんだよ。変なプレゼントを持っていったら、足長君は絶対にばかにしてくるよ。」何を言ってもだめでした。

仕方がないので、100円玉1枚をにぎりしめ、よしこさんのプレゼントさがしの旅に出ました。まずは、「おもちゃの中川」に行き、女の子が好きそうで100円で買えるぬいぐるみをさがしました。一番安くても400円くらいはします。100円で買えるぬいぐるみは一つもありませんでした。

「やっぱりなあ。100円だけじゃ、どうしようもないよなあ。」とつくくんは悩みましたが、「ピッカーン！」とひらめきました。

「そうだ。あれにしよう。」
とつくくんは100円で買えるさいこうのプレゼントを思いつきました。

つづく

とつくくんがひらめいた最高のプレゼントとは何なのか。

次回予告 100円で買える最高のプレゼント



校長先生の初恋物語

第11話 もう一人の男の子



「がらがら。」
図書室のドアがいきおいよくあきました。そこに立っていたのは、足長君でした。「うっ……足長君か。」とつくくんは不安になってきました。このところの足長君のいやがらせは、エスカレートするっぽうです。誕生日会の中でも、とつくくんに対して、何かしてきそくないやなよかんがします。さらに、足長君は気になることを言いました。

「よしこさん、またぼくを誕生日会に誘ってくれるんだね。これで、5回目かな。」

なんと、足長君は毎年よしこさんの誕生日会にしようたいされているのです。ということは、よしこさんが好きな人は、足長君ということでしょうか。

足長君は、図書室を出るとき、とつくくんに向かって言いました。「とつくくん、誕生日会を楽しみにしてるぜ。とつくくんはいったい、どんなプレゼントを持ってくるんだろうね。期待してるよ。」そんなことをいやーな感じで言って、そのあと、よしこさんの手を引っ張って行ってしまいました。

図書室に取り残されたとつくくんは、悩みました。「そうか。誕生日会にいくんだったら、なにかプレゼントを持っていかないといけないのか。」これまで誕生日会にさそわれたことがないとつくくんは、そんなことも分かりません。さらには、女の子がどんなプレゼントをよろこぶのか、まったく思いつきません。「よしこさんは、いったいどんなものがほしいんだろう。なにをもらえたら喜ぶんだろう。」

男の子がほしががるものは、例えば、「スーパーカーのプラモデル」「アメリカンヨーヨー」「キン肉マンのまんが」こんなところです。



でも、よしこさんはそんなものをもらっても喜びはしません。

「きっと、ぬいぐるみなんか、ほしいんだろうなあ。」

ところが、とつくくんのおさいふには、100円玉が一枚あるだけです。100円では、ぬいぐるみなんて買うことはできません。とつくくんは、お母さんになきつきました。

「お母さん、よしこさんのお誕生日会によばれてるんだけど、何かプレゼントを買いたんだ。でも、100円しかなくて……。プレゼント、買えないよー。お金ちょうだい、いいでしょ。」

しかし、とつくくんのお母さんは、かんたんにはお金をくれないけちな人です。毎月のお小遣いは500円。それいはいはお手伝いをしないとくれません。お金にはきびしいお母さんはこんなことを言いました。

「何考えてんの。お手伝いもしない子に、お金なんてあげるわけないでしょ。100円あるんなら100円のものを買えばいいのよ。」こんなひどいことを言うのです。

「100円じゃ、ろくなもの買えないでしょ。お母さんは、ぼくがよしこさんにきらわれてもいいの。足長君も来るんだよ。変なプレゼントを持っていったら、足長君は絶対にばかにしてくるよ。」何を言ってもだめでした。

仕方がないので、100円玉1枚をにぎりしめ、よしこさんのプレゼントさがしの旅に出ました。まずは、「おもちゃの中川」に行って、女の子が好きそうで100円で買えるぬいぐるみをさがしました。一番安くても400円くらいはします。100円で買えるぬいぐるみは一つもありませんでした。

「やっぱりなあ。100円だけじゃ、どうしようもないよなあ。」とつくくんは悩みましたが、「ピッカーン!」とひらめきました。

「そうだ。あれにしよう。」
とつくくんは100円で買えるさいこうのプレゼントを思いつきました。

つづく

とつくくんがひらめいた最高のプレゼントとは何なのか。

次回予告 100円で買える最高のプレゼント

